

第 1 学年 国語科 学習指導案

【本時の主張】

生徒は小学校 6 年生の時に「対比」という観点で文章を読むトレーニングを積んできているため、「対比」という観点から思考することのできる生徒が複数名おり、学習をリードする場面が多く見られた。

また、4 月からこれまでに文章を読むための観点として「色彩表現」「象徴」「伏線」「表現技法」等にも触れてきており、読むための観点到目するとより深く読み味わうことができるという体験をしてきている。しかしながら、それぞれの観点について考える場面は限られており、活用できるスキルとして身に付いているとはいえない。

そこで本時では、観点を基に文章を読み解くという方法を客観的に捉えさせ、スキルとして活用できるような力を付けたい。

そのために次のような手立てを講じる。

- ① 「作者はキキの生き方を応援しているのか、批判しているのか」という二者択一の発問を投げ掛けることにより、文章全体の読み直しをさせる。
- ② その際に、観点を基に理由を説明させる。

これにより、生徒は文章全体について観点を基に考え、文章中にはりめぐらされた表現の工夫「対比」「色彩表現」「伏線」「表現技法」等に気付き、そこから「象徴」や「作品のもつメッセージ性」という作者の意図についても、自分の力で考えを広げることができるようになる。

1 単元名 作者の意図を読み取ろう 「空中ブランコ乗りのキキ」

2 単元の目標

- 場面ごとのキキの心情とその変化を読み取ることができる。(読むこと)
- 四回宙返りに挑むキキの生き方に対して、自分の考えをもつことができる。(読むこと)
- 作者がこの作品に込めた思いを想像することができる。(読むこと)

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	・物語の展開に即して、登場人物の心情の変化について考えようとしている。
読む能力	・キキにとって「宙返り」とは何なのかを考えることによって主題をとらえている。 ・物語の展開に即して、登場人物の性格やものの考え方、キキとのかかわり方をとらえている。
言語事項	・比喩的な表現が物語の中で果たしている役割について考えている。

4 単元と指導の構想

(1) 単元と生徒

「読むこと」が若干全国正答率を下回っているものの、ほぼ全国正答率と同等程度の力をもっている。

「読むこと」は男子の数値が高く、それ以外の領域では女子の数値が高いという特徴がある。「要旨の読み取り」で若干全国比を下回っているほかは、全国比と同等か上回っている。学年 3 学級中で一番高い学力

偏差値をもっているものの、二極化の傾向にある。

授業においては、「読むこと」の教材に対する関心は高く、発問に対しても意欲的に取り組む生徒が多い。また、発言・発表の仕方や、文章を読む観点として「対比」という概念をもっている生徒も複数おり、小学校で鍛えられてきた様子もうかがえる。引き続き伸ばしていきたい姿である。発言や発表に対する意欲的な面を生かしつつ、「読むこと」の力を高めていくような指導をしていきたい。なお、力はあるものの発言を控えている生徒や、深く考えないまま発言してしまう生徒、全体発表の場面で聞いてもらおうという意識が弱い生徒も多い。NRTで「話すこと」については全体的に全国比を上回り、「聞くこと」については全体的に全国比を下回るという結果も出ており、「話すこと・聞くこと」のスキル面の指導も必要である。

今回、教材とした「空中ブランコ乗りのキキ」は1年生に配置されている物語・小説学習材の一つである。人間の生き方や幸せとは何かといった重いテーマを主題としながらも、不思議なおばあさんが登場したり、伏線をはりめぐらせながらも謎めいた結末になっていたり、様々な工夫が施されている文章である。生徒に人気のある教材の一つであり、文章中の工夫を読み取らせるにも適した教材といえる。

文章中の工夫に着目することは作者の思い、すなわち主題や作者が伝えようとしているメッセージとも関連してくるものである。これまでの学習の中で、文章を読むための観点として以下のような指導を行ってきた。(表-1) 本教材では、これまで学習してきた読むための観点を基に文章中の工夫を読み取る活動を通して、これらの観点から文章を読むトレーニングの場としたい。

表-1 「読む」ための観点指導教材

教材名	対比	色彩観	象徴	表現法	主題	構造	伏線
「朝のリレー」(詩)	○		○	○	○		
「竜」(物語)	○	(○)	○		○	○	
「アイスクャンデー売り」(随筆)	○		○		○	○	(○)

※「竜」における色彩表現、「アイスクャンデー売り」における伏線は軽くふれた程度
 ※構造＝物語の構造…A(中心人物)がX(出来事や人物)を通してBスル(変化する)話ととらえ物語の主題をまとめること

(2) 指導の構想

この作品の主題は「人気を維持するために命をすてられるキキの生き方」にあると考える。観客からの拍手のために命をかけるキキの生き方は、共感する生徒もいれば疑問を感じる生徒もいると予想される。それは、生徒自身の人生観や幸福感の違いでもある。この時、単にキキの生き方に「賛成・反対」の読み方に陥ってしまうと、感想を発表する活動で終わってしまい、作品そのものについての思考の深まりは期待できない。

この作品は物語の初めから結末に結びつくような伏線がはりめぐらされ、途中謎めいたおばあさんが登場したり、キキの宙返りを成功に導く不思議な「澄んだ青い水」が出てきたりと、作品中に数々の仕掛けが用意されている。生徒はそれらを感じ取りながらもうまく説明できないもどかしさをもつと思われる。

(教材観)

そこで、物語を読むための観点を基に作者が作品に施した工夫について考え、説明できる生徒を目指したい。それは、生徒にとってこの作品に対して抱いていた疑問を解く鍵になると同時に、どのような作品を読むときにも応用できる力になると考えるからである。(生徒に付けたい力)

そのために、「作者はキキの生き方を応援しているのか、批判しているのか」について考えさせることを通して作品そのものに目を向けさせる。(手立て1) その際、物語を読むための観点を基に作品中に施された工夫点と結び付けて考えるよう促したい。(手立て2)

また、「キキはもうどこにもいなかった」「翌朝、サーカスの大テントのてっぺんに白い大きな鳥が止まって」いたこと、その鳥が「悲しそうに鳴きながら、海の方へと飛んでいった」「もしかしたらそれがキキだったのかもしれないと、町の人々はうわさ」していたといった結末部について考えさせることによって、最終的に読者に結末部をゆだねるといった作者の思いについても考えさせたい。(手立て3)

5 単元の指導計画 (全9時間)

時	○ 学習のねらい ・ 主な活動内容	評 価			
		関	読	言	評 価 規 準
1	○ 全文を通読し、登場人物と場面の展開をつかむ。 ・音読 ・語句調べ	○	○	○	○ 物語の内容を理解しようとしている。
2 3 4 5	○ 物語におけるキキの心情の変化を、場面や状況に即して読み取る。 ・音読 ・要約	○	○		○ 物語の展開に即して、登場人物の性格やものの考え方をとらえている。
6 7	○ 物語の主題をとらえる。 ○ 比喩の効果を知る。 ○ 作者の意図に関心をもつ。 ・「作者はキキの生き方を応援しているのか、批判しているのか」について文章中の工夫と照らし合わせて考える。	○	○	○	○ 物語の主題をとらえている。 ○ 比喩の効果について理解している。 ○ 作者が物語を書いた意図について文章中のことばを用いてまとめている。
8 9	○ 物語を読むための観点を基に作者の工夫を読み取る活動を通して、作品に込められた作者の思いを読み取る。	○	○		○ 観点を基にして作者の工夫を読み取るとともに、作品に込められたメッセージと関連させて解釈をしている。

6 本時の学習 (8/9時間目)

(1) 本時のねらい

- 物語の展開に即して、登場人物の心情の変化について考えようとしている。
- 物語を読むための観点を基に作者の工夫を読み取る活動を通して、作品に込められた作者の思いを読み取ることができる。

(2) 本時の構想

生徒は前時に作品の主題を捉える活動を通して「作者はキキの生き方を応援しているのか、批判しているのか」について考えるための前段階として、文章中の工夫点とその効果について自分なりの意見をもっている。本時ではそれを基に班交流をすることで自分一人では気付かなかった読み取りに気付かせるとともに、読むための観点を基に考えると見えてくるものがたくさんあることに気付かせたい。生徒は作品中にはりめぐらされた伏線の効果や、作品の中で対比されている「人気と命」に気付くとともに人気を選んだキキの後悔といった作品のもつメッセージ性にも気付くと思われる。これらのことから「作者はキキの

生き方に批判的」という意見が出てくる一方で「白い大きな鳥」のもつプラスのイメージから「作者はキキの生き方を応援している」という意見も出てくるのが予想される。これらの矛盾性を基に、「もしかしたらそれがキキだったのかもしれないと、町の人々はうわさして」いたといった結末部の検討へとつなげたい。

(3) 本時の展開と評価

学習内容・活動	主な教師の働きかけと生徒の反応	指導上の留意点と評価
○ 前時の授業を振り返り、本時の学習内容を確認する。(2分)	○ 前時に書いた意見プリント(資料①)を見ながらこれまでの学習を振り返る。	・ <u>観点ラベル</u> を見せながら観点について確認をする。
○ 学習プリントを基に班内交流を行う。→観点ラベルを活用して意見をまとめる。(説明2分, 活動20分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「空中ブランコ乗りのキキ」の表現上の工夫点をたくさん挙げましょう。班で観点別に分け、そこから考えられる効果を話しあいましょう。</p> </div> ○ 表現の工夫のみ挙げている生徒がいた場合、観点がわからない生徒がいた場合 →班で考えるよう促す。 〈予想される生徒の反応〉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対比…人気と命／三回宙返りと四回宙返り ・ 色彩表現…白／青／赤と青の電気／真っ暗 ・ 象徴…白い大きな鳥＝キキ ・ 伏線…白い魂／白鳥→白い大きな鳥 ・ 表現技法…比喻 ・ メッセージ…悲しそうに→キキの後悔 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>見本</u>や班ごとの<u>活動用かご</u>を用意し、話し合い活動にスムーズに入れるようにする。 ・ <u>観点ラベル</u>を活用することによって観点を意識して話し合いができるようにする。 ・ 質問をしたり、仲間の意見にコメントをしたり、積極的な意見交流をするよう促す。(自己評価カード：発言との関連) 【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを基に自分の意見を発表している。(自己評価カード) ・ 必要に応じて質問するなど自分の考えとの相違点や共通点を整理している。(自己評価カード) ・ 班内交流に積極的に参加している。(見取り) 【読むこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 観点を基に自分の意見を述べている。 ・ 仲間の意見を参考にさらに考えを深めている。(画用紙)
○ 出てきた意見を基に作者の思いを考える。(10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>では、今出てきた意見をもう一度眺めてみましょう。それらから分かる作者の思いについて考えてください。</p> <p>作者はキキの生き方を応援するつもりでこの話を書いたのでしょうか？それともそんな生き方はよくないよ、という戒めのような意味を込めて批判的に書いたのでしょうか？班でどちらかの意見に絞ってください。</p> </div> ○机間指導の中で以下の助言を適宜行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を黒板に板書する。 【読むこと】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章全体を通しての作者の思いについて考えている。(画用紙)

	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの表現について応援か批判か検討するとよいことを伝える。 ・作品のメッセージとは何かを考えさせる。 ・メッセージは作品の最後の部分に隠されていることが多かったことを思い出させる。 ・白い大きな鳥に目を向けさせる。(→「悲しそうに…」との矛盾) ・「もしかしたらそれがキキだったかもしれないと…」の表現について考えさせる。 	
<p>○ 発表(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班の代表者は画用紙を基に思考の流れを説明する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>各班で決まった意見(応援か批判か)を黒板に書きにきてください。考えの基になった画用紙も貼りましょう。</p> </div> <p>○ 「悲しそうに鳴きながら…」 「それがキキだったのかもしれないとうわさされて…」 両方についての見解が書かれていたものがあった場合→それを取り挙げる。</p> <p>○ 「悲しそうに鳴きながら…」 だけに触れていた場合 →他のプラスのイメージを抱かせる記述との矛盾点について考えさせる。 →伏線について触れ、最後の一文の意味について考えさせる。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4回宙返りを成功させてあげたのだから応援している。 ・ 「白い大きな鳥」はプラスのイメージを抱かせる言葉なのでキキが白い大きな鳥になったと考えれば応援している。 ・ 「白い大きな鳥(=キキ)」が悲しそうに鳴きながら…とあるのでキキは後悔しているということ伝えたかったのではないかと批判している。 ・ 「悲しそうに鳴きながら…」から、結局命が一番大事ということがメッセージだから→批判している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板に応援・批判に分けて貼らせる。 ・ たくさんの観点について考えられたこと、同じ箇所を引用しながらも、とらえ方の違うものがあることについて触れる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間の意見に関心をもって聞いている。(見取り) ・ 教師から投げ掛けられた事項について自分なりに考えようとしている。(発言もしくは次時の活動時評価)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価カードに振り返りをする。(1分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価カードに今日の振り返りをする。(授業態度、発言のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班活動で質問をしたり、仲間の意見にコメントをした人は発言のところを○で囲むよう指示する。

(4) 本時の評価 ※班ごとの画用紙で評価

B 「読むための観点」を挙げ、そこから考えられる効果を説明している。

A 「読むための観点」とその効果を説明した上で、作品全体の中での役割や作者の意図に触れながら説明している。